

令和6年2月29日

豊坂小学校保護者 各位

幸田町立豊坂小学校長 伊藤 美佳

豊坂小学校教育診断アンケート結果及び分析等について

早春の候、保護者の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は本校教育にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、過日お願いしました学校教育診断アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。その集計結果をもとに2月5日に学校関係者評価委員会を開催し、委員の方から貴重なご意見を頂きました。ここに、アンケートの集計結果と委員の方から頂いたご意見をもとにした今後の学校運営のまとめをお届けします。よりよい豊坂小学校をめざして職員一同、一層の努力をしてみたいと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。

A…よくあてはまる (そのように思う)
B…ややあてはまる (どちらかというとそのように思う)
C…あまりあてはまらない (どちらかというそのように思わない)
D…まったくあてはまらない (まったくそのように思わない)
E…わからない (該当しない)

回答数	児童(4~6年)	198名
	保護者(全学年)延べ	423名
回収率	児童	97.5%
	保護者	96.5%

※ 四捨五入の関係で1%程度の誤差があります。

1 楽しい学校

対象	番	評価項目	A+B
児童	3	学校へ来るのが楽しい。	87%
保護者	3	お子さんは、学校へ行くのを楽しみにしている。	86%

この調査項目は最も重要な項目と捉えている。すべての児童が学校へ通うのが楽しいと思えるように、一人一人の児童への言葉かけ等、工夫していきたい。

2 あいさつ

対象	番	評価項目	A+B
児童	4	元気にあいさつや返事ができる。	85%
保護者	4	お子さんは、あいさつや返事がよくできる。	83%

学校内の決まった場面ではよくできるようになっているが、地域においても同様にあいさつができるかと考えると、まだまだ満足できる状態とは言えない。子どもたちももう少しできると考えているのではないだろうか。今後も「あいさつ運動」などを工夫し、仲間づくり、学校づくりの原点であるあいさつの定着を図っていきたい。

3 行事

対象	番	評価項目	A+B
児童	5	学校の行事(運動会や相撲大会・学芸会など)は、積極的に参加している。	97%
保護者	5	お子さんは、運動会、学芸会、すもう大会、マラソン大会などの学校行事に積極的に参加している。	94%

行事に意欲的に参加できる豊坂っ子の特徴がよく表れている。保護者にも子どもたちの様子から行事に積極的に参加していることが伝わっていること考えられる。今後も、児童が行事に積極的に参加できるよう、工夫・改善に努めたい。

4 自治活動

対象	番	評価項目	A+B
児童	6	委員会活動には、意欲的に参加している。	96%
児童	7	学級の係活動などに責任をもって取り組んでいる。	93%
児童	14	自分の目標や学級のためをやりとげようとがんばっている。	86%
児童	15	学級に問題があったとき、みんなで協力して解決できる。	90%
保護者	6	お子さんは、委員会活動や係活動、当番活動に意欲的に参加している。	89%

児童設問で90%を超える高い数値となった。自分たちで考え、よりよい生活を創っていく「生きる力」を伸ばすために、これからも教員の効果的な指導を工夫したい。

5 授業

対象	番	評価項目	A+B
児童	8	授業は分かりやすい。	96%
児童	9	授業では、進んで自分の意見や感想などを発表している。	73%
児童	10	授業では、友達の見や感想をしっかり聞くようにしている。	96%
児童	13	授業のふり返りや感想、日記などに自分の思いや感想を進んで書いている。	93%
保護者	9	学校は、ドリルタイムや少人数指導・ティームティーチング（複数教師による指導）等により基礎学力の定着を図ろうとしている。	88%

研究発表を来年度に控え、職員一丸となって授業改善に努めている。その成果が出るまでに少し時間がかかると思われる。従来通りの授業の形とは変わってきているので、保護者にも理解を求める必要がある。子どもが自信をもって表現できるように支援することを継続していきたい。

6 体力チャレンジ

対象	番	評価項目	A+B
児童	11	体力チャレンジ（かけ足・なわとびなど）は、積極的に取り組んでいる。	89%
保護者	7	学校は、体力チャレンジや行事、授業等を通して体力の増強と健康の増進を図っている。	97%

熱中症の予防に留意しながら、チャレンジタイムをできる限り実施してきた。遊びの要素を入れながら、様々な運動に取り組んでいるが、さらに工夫を加えて、楽しく体を動かすことができるようにしていきたい。

7 読書と朝の活動

対象	番	評価項目	A+B
児童	12	読書の時間は楽しい。	89%
保護者	8	学校は、読書等を重視し、豊かな心を育てようとしている。	86%

今年度、朝の時間に読書タイムを設定した。子どもたちは読書や読み聞かせを楽しみにしており、語彙を増やすことも目的の一つとして、今後も続けていく。

8 自信（自己有用感）

対象	番	評価項目	A+B
児童	17	学校での生活の中で、自信をもっていることがある。	83%
保護者	10	先生や学校は、子どもの能力や意欲を適切に判断し認め、子どもに自信を持たせようとしている。	80%
<p>子どもたちに自信をもたせるにはどうしたらよいか、模索中である。授業、行事、遊び等、様々な機会を捉えて活動を見取り、手だてを見直し、家庭と連携して支援にあたりたい。</p>			

9 悩み・いじめ

対象	番	評価項目	A+B
児童	18	いやなことを言われたりされたりして、長い間なやむことはなかった。	74%
保護者	11	お子さんは、いやなことを言われたりされたりして、長い間悩むようなことはなかった。	72%
児童	16	友達のいやがることはしないように、悪口は言わないようにしている。	91%
<p>子どものつらい現状が浮き彫りになった。アンケートや面接によって、子どもの内面を捉えるように努力しているが、十分ではない。「悪口は言わないようにしている」と意識している子どもが多いが、嫌なことをされたり、言われたりしていると感じる子どもも多い。人間関係づくりのスキルを磨く機会を増やすことが必要だと感じている。</p>			

10 友達

対象	番	評価項目	A+B
児童	19	自分が困ったりなやんだりしたとき、相談したり助け合ったりできる友達がいる。	88%
保護者	12	お子さんは、相談できたり協力できたりする友達が学校にいて言っている。	76%
<p>「9 悩み・いじめ」とも大きく関連するが、お互いに支えあう雰囲気のあるクラスづくりに努めていく必要を痛感している。そのために「とよさかタイム」(SSTと構成的エンカウンターを組み合わせたもの)に取り組んでおり、今後も継続していく。</p>			

11 先生への信頼

対象	番	評価項目	A+B
児童	20	自分が困ったりなやんだりした時、相談できる先生がいる。	86%
児童	21	わたしたちの気持ちを考え、がんばりを分かってくれる先生が学校にはいる。（担任の先生以外にいる場合でもよい）	86%
保護者	13	先生や学校は、いじめや問題行動に対して真剣に動いてくれる。	80%
保護者	14	先生や学校は、子どものことについて気軽に相談できる雰囲気がある。	80%
保護者	15	先生や学校は、子どもの気持ちをよく理解し、認めてくれる。	82%
<p>子どもと真剣に向き合おうとしている教員の姿勢が、子どもたちに十分に伝わっていないところもあると考えられる。より丁寧な対応が必要だと考える。</p>			

12 良い関係づくり

対象	番	評価項目	A+B
保護者	18	学校は、保護者や地域の人たちと良い関係づくりに努めている。	94%
<p>保護者設問について高評価をいただいた。教師の意識の高さを今度も継続させ、引き続き保護者や地域の方々との良い関係づくりに努めたい。</p>			

13 安全・安心

対象	番	評価項目	A+B
保護者	16	学校は、地震や風水害の場合について適切に対応し、安全・安心な学校づくりに努めている。	96%
運動会後の引き渡し訓練、6月にあった豪雨に対する対応など、一定のご理解をいただけたと考える。今後もより安全な学校を目指し、工夫をしていきたい。			

14 通信・お知らせ

対象	番	評価項目	A+B
保護者	17	学校は、通信や学校ホームページ等を通して学校の方針や様子が分かるようにしている。	87%
HPや学級・学年通信の内容を充実させ、教員の思いが保護者に確実に伝わるようにして、共に協力して児童の成長を促していきたい。			

15 その他

対象	番	評価項目	A+B
保護者	19	学校から出される通知表の評価は、納得のいくものになっている。	91%
評価については引き続き説明責任を果たすよう努力していく。			

アンケート結果を踏まえた今後の学校運営について

① 全体

全体としては、ほぼ80%以上の良い評価をいただいた。新型コロナウイルス感染症が五類となり、学校生活が以前の状況に戻ってきた。そのことを喜ぶ気持ちがある反面、大変さを感じている児童もいるように感じる。今後も、児童が安心して頑張れる学校づくりに取り組んでいきたい。

② 楽しい学校

「学校へ来るのが楽しい」の設問でA・Bを選択した児童、保護者は80%を超えている。「学校の行事には積極的に参加している」設問も児童・保護者ともに、この数年90%以上の高い数値が続いている。また、「授業は分かりやすい」と回答した児童も多く、学校で充実した生活を送っている児童の姿が見取れる。授業と行事に前向きに取り組める雰囲気のあることが、魅力ある学校の条件である。このことを大切に、教育活動に取り組んでいきたい。

③ あいさつ

あいさつと返事は、温かい人間関係づくりに欠かせない生活習慣の基本である。学校の中だけでなく、どこでも、だれに対しても明るくあいさつができるように、児童の意識を高めていきたい。

④ 教師への信頼関係

児童と教師との温かい信頼関係は、学校教育の底辺を支えるものである。児童設問の「相談できる先生がいる」は、児童で86%の数値を得ている。今後も、担任に限らず、どの教師にも相談しやすい状況づくりや、子どもの頑張りを認める方法を模索し、保護者からの信頼もさらに得られるように工夫していきたい。

⑤ 自信（自己有用感）

「学校での生活の中で、自信をもっていることがある」と答えられる児童が増えるように、児童の挑戦しようという意欲の掘り起こしと、その挑戦を後押しし支えながら成功体験を積み重ねることで、自己有用感を高めていきたい。

⑥ 自治活動

自分たちの生活を自分たちでよりよくしようという姿勢は、社会生活の基礎となるものである。全学年が発達段階に応じた学級活動を行い、4年生以上は児童会活動（委員会活動）も行っている。本年度も、この取り組みに関する児童設問では高い数値を得ている。仲間と協力して自主的に物事に取り組むことは児童に身につけさせたい大事な「生きる力」なので、さらに手だてを工夫していきたい。